

地域政党京都党は平成26年6月18日、来年4月に行われる統一地方選挙の第1次公認候補を発表いたしました。現職のもの、前回は残念ながら届かず浪人期間を経て再起を目指すもの、そしてこの4年間で新たに出会い、新しく京都市政に挑戦するもの。様々ではございますが、皆ひとつ“京都の発展”のために邁進する所存です。

第 1 次公認候補一覧 (選挙区順)



氏名 村山 せいき
選挙区 北区
生年月日 昭和 58 年 12 月 14 日
年齢 30
現 / 新 新



氏名 森 かれん
選挙区 上京区
生年月日 平成 2 年 2 月 11 日
年齢 24
現 / 新 新



氏名 大津 ゆうた
選挙区 中京区
生年月日 昭和 58 年 3 月 15 日
年齢 31
現 / 新 新



氏名 やまづまい子
選挙区 下京区
生年月日 昭和 56 年 6 月 28 日
年齢 32
現 / 新 新



氏名 中島 たくや
選挙区 南区
生年月日 昭和 58 年 12 月 14 日
年齢 30
現 / 新 現職



氏名 江村 りさ
選挙区 右京区
生年月日 昭和 60 年 10 月 25 日
年齢 28
現 / 新 現職



氏名 木下 よう子
選挙区 西京区
生年月日 昭和 55 年 3 月 27 日
年齢 34
現 / 新 新



氏名 松永 たくや
選挙区 伏見区
生年月日 昭和 59 年 6 月 5 日
年齢 30
現 / 新 新



ただ今、京都府議会議員、ならびに京都市会議員の候補者公募を行っております。詳しくは、京都党ホームページをご覧ください。(平成 26 年 7 月 31 日必着)



トピックス 1 面 … 5 定例会報告
2 面 … 活動報告 01 「東京都・富山県・石川県視察」
3 面 … 活動報告 02 「京都府議会基本理念」府議会議員(市内選出) 不要論への挑戦」
4 面 … 活動報告 03 「地域政党 京都党 平成 27 年 統一地方選挙 市議会議員選挙 第 1 次公認候補発表」

5 月定例会報告

5 月定例会は、5 月 16 日から 5 月 30 日まで開かれました。本定例会では、28 億 2600 万円の補正予算案などを可決しました。

補正予算では(1)夏の京都販売促進キャンペーン 4500 万円、(2)商店街の環境整備に 1400 万円、(3)民間保育所の整備助成に 3 億 3300 万円、(4)新工業高校の整備に 21 億 2200 万円、(5)バイオマス産業都市構想の策定に 270 万円などが盛り込まれました。その他、昨年福知山の花火事故を教訓とした京都市火災予防条例の改正案などが可決しました。



● 新工業高校が誕生 !! ●

議論が白熱したのは(4)新工業高校の整備です。京都市には 2ヶ所の工業高校があります。全国初の公立の工業高校である洛陽工業高校とラグビーで全国的に有名な伏見工業高校です。両校とも産業界をはじめ、各界に多様な人材を輩出してきました。しかし、工業高校のあり方が変わる中に、生徒数の減少と老朽化の課題を抱えています。そのため、平成 28 年 4 月に両工業高校を統合し、深草の旧立命中学・高校に新工業高校を建設することとなりました。

● 3 倍の借地代 !? ●

問題となったのはその借地代。旧立命中学・高校の大部分の敷地は京都市が買い取りますが、その一部は借地となります。そして地代は以前の契約を引き継ぐこととなりました。その借地代は年間約 1200 万円。京都市の基準よりも 2 倍から 3 倍の高額。この借地代については各会派から疑問の声が上がり、借地の適正価格での購入と借地代の見直しを求める付帯決議が全会派の一致で可決しました。

● 工業高校の跡地の活用も !! ●

また残念ながら閉校となる洛陽工業高校も伏見工業高校も交通アクセスのよい都心部にあるため、今後、この跡地の活用にも注目をすべきです。京都市は閉校となった小学校、中学校の活用事例はありますが、高校の跡地活用は初となるので、本市にとって、また地域にとっての活用策を検討する必要があります。これで 5 月市会は閉会。通年議会のため来月も議会の予定があります。今後とも京都の未来を見据えて議論し続けて参ります!!

活動報告 01 / 活動報告～東京都・富山県・石川県視察～

地域政党京都党市会議員団として、平成26年6月2日(月)から4日(水)の3日間の日程で視察に参りました。視察地は東京都・富山県・石川県です。ここでは、東京消防庁の「救急車の適正利用に向けた取り組み」についてご報告いたします。その他の富山県・石川県の視察報告は“地域政党京都党市会議員団”ホームページ内にてご報告しておりますのでご覧ください。

【視察内容】

東京都：救急車の適正利用に向けた取り組みについて（東京消防庁） / 教育エンカレッジスクール（東京都）

富山県：北陸新幹線の開通に向けての取り組みについて（富山県庁） / コンパクトシティについて（富山県庁）

石川県：金沢まちなか住宅再生バンク（金沢市）

【視察報告（抜粋）】

●救急車の適正利用に向けた取組について（東京消防庁）

京都市の救急出動件数(平成25年度)は80,576件。前年度比で25,79件の増加となり、8万件を突破した。24年度は860件の増加であった。昨年度の救急出動件数の急増ぶりがよく分かる。この急増には高齢化の進展が背景であるが、それと同時に救急の必要がない搬送にも問題がある。だからこそ、救急車の適正利用が急務である。そこで平成19年より救急車の適正利用に取組む東京都を視察した。注目すべきは(1)救急相談センター、(2)救急搬送トリアージだ。いずれも京都市での導入はなく、今後の救急医療の整備に参考となる。

(1) 救急相談センター

救急車の出動が必要かどうかの判断に迷う都民のための仕組みが救急相談センター(#7119)だ。このセンターは大手町と立川の2拠点あり、看護師と医師が常駐。都民の救急相談に応じる。救急が必要な場合は救急部門に電話を転送し、それ以外の場合は医療機関の案内等を実施する。平成19年に事業を開始してから救急搬送者の軽症率は一貫して右肩下がりで減少している。救急の軽症率は59.8%(平成19年度)から51.6%(平成25年度)まで減少したのだ。年間の相談件数は8万96,177件。この事業は単なる軽症者の救急車利用を抑制するだけでなく、救急車を利用したいが躊躇をする都民にとっても相談しやすいメリットがある。しかし、課題もある。都民の認知度だ。世論調査によると都民の認知度は38%であり、今後の更なる周知が必要だ。事業費は約5億円。

(2) 救急搬送トリアージ

東京消防庁は平成21年4月より救急搬送トリアージを本格運用している。この事業は救急隊員が救急現場で傷病者を観察した結果、明らかに緊急性がないと判断した場合、自力受信を促す。同意が得られれば、救急隊は次の救急出場に備える。不搬送により再出場可能までの時間が平均18分06秒短縮する。救急のトリアージは救急現場でのトリアージ以外にも119の通報時点でトリアージを実施するコールトリアージがある。コールトリアージの方が救急車適正利用の効果が高い。しかし、都は行政の不作為のリスクを軽減するために現場でのトリアージを採用している。都のトリアージは外傷の場合のみで実施する。内科の疾患に対しては実施しない。この現場でのトリアージは平成21年のスタートから件数は減り続けている。これは救急現場の逼迫状況が都民に一定広まり、また救急相談センターの効果もあり、軽症者の救急通報が減っているためであろうと推察できる。

(文責：中島拓哉)

活動報告 02 / 京都府議会基本理念 「府議会議員(市内選出)不要論への挑戦」

自立した京都広域都市圏(仮称)の実現

～市民にとって世界一住みやすい都市を目指して～

「市内選出の府議会議員は仕事がない！無駄！仕事といえば警察と河川だけ！」

そんな声をよく耳にします。なぜ、こうした不要論が生まれてしまうのでしょうか。確かに基礎自治体京都市が所管する領域が大きく、府の関与する余地が少ないという一面はあります。しかし、本当に彼らはいらない存在なのでしょうか。我々は京都市で活動する中で、気づきました。その良さを生かしきれていない今の京都府、府議会議員に問題があるのです。

人口減少社会の到来は都市の持続可能な発展の前に大きな壁として立ちはだかっています。京都が持続可能な都市圏を確保し続け、永続的に発展を続けるために、私たちは文化首都京都の実現に邁進して参りました。京都の持続的発展の達成には、東京一極集中の打破はもちろん、阪神経済圏から自立した広域京都経済圏を確立し、京都市を機軸とした「大きな京都」を京都府、周辺自治体と共に作り上げていく必要があります。我々は思想信条を超え、地域主義(我々の場合京都市に特化した)を掲げ、京都市民の最大幸福を求め、京都広域都市圏(仮称)の実現に向け、府との連携を進めていきます。

京都府政の大転換 3つの挑戦！！

1. 大都市「京都」への挑戦！！

文化首都「京都」を軸に、京都広域都市圏の確立に向け、周辺都市との連携による大都市「京都」を目指します。そして、しがらみの府市協調を打破し、府を行司役とした府下の市町村の事業連携の強化、効率化を進めます。ムダな二重行政を排除し、合理的で効率的な府市合作に取組みます。

2. 京都府の財政再建・無駄遣いゼロへの挑戦！！

京都市の借金に京都府の借金を合計すると4兆円を超えます。京都市民ひとりあたりで見れば、約279万。これに国の借金を合計すると市民ひとりあたりの負担は1千万円を超えます。将来世代へ負担を押しつけないために、財政規律を徹底した起債ゼロの無借金経営都市を府市ともに取組みます。

3. 京都市内選出の府議会議員不要論への挑戦！！

「市内選出の府議会議員は仕事がない！いらへん！警察と河川だけやん」そんな声をよく耳にします。不要と言われるのは京都府が京都市の役に立っていないから。府議会議員を軸に府市や周辺都市との連携を徹底し、京都市内選出の府議会議員が京都市民に必要なだと認められる情報発信と政策立案に取組みます。

